

令和6年2月16日

各位

公益財団法人 大山健康財団

理事長 神谷 茂

令和5年度「第50回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第6回竹内勤記念国際賞」受賞者並びに「第50回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和5年度の「第50回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第6回竹内勤記念国際賞」受賞者各1名、並びに「第50回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成30年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は令和6年3月14日（木）午前11時30分から霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館（東京都千代田区霞が関3-2-1）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

令和5年度「第50回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 こばやし じゅん 小林 潤

琉球大学大学院 保健学研究科長／医学部 保健学科長 国際地域保健学教室 教授
日本国際保健医療学会 理事長 国際学校保健コンソーシアム 理事長
NPO 法人メータオ・クリニック支援の会 代表理事
医師 医学博士 （満61歳）

【業績内容】

小林潤氏は、故竹内勤慶應義塾大学名誉教授が牽引してこられた橋本イニシアチブ事業においては、寄生虫症対策を学校を基盤として展開することで成果を上げてこられましたが、その後、これらを他感染症全般対策、栄養教育や水と衛生の整備に発展させ、さらに近年では思春期の課題であるメンタルヘルス、性教育への普及にも取り込まれ成果を上げられています。

また、2008年にはミャンマー難民への保健医療支援としてNPO法人メータオ・クリニック支援の会を設立され、15年間にわたって継続して草の根の人道支援活動を実施され、2021年のミャンマ

一軍事クーデター直後には、避難民に保健医療分野で直接支援できる唯一の団体として、タイ・ミャンマー国境地帯の避難民 20 万人を対象に大型プロジェクトを展開されました。

小林氏が中心となって 2010 年に設立された国際学校保健コンソーシアムは国際的なシンクタンクとして広く認められ、アジアのハブとなっています。WHO 等の国際機関を支援する等で国際的政策策定を行い、同時に研修コースを運営し低中所得国の人材育成にも寄与され、100 人以上の実務家養成にも実績を上げられています。

さらに、新型コロナウイルス・パンデミック当初から感染症対策の強化は生徒へのメンタルヘルス等の副作用に至ることを警告され、アジア太平洋地域での学校閉鎖の早期取りやめに繋げられたほか、パンデミック後の学校保健政策の再構築の指針も示されました。

以上のように、小林氏は学校を基盤とした感染症対策の国際的推進と難民・貧困僻地等の脆弱性のある人々に対する健康改善に対して、草の根人道支援活動及び政策提言の両面から長年寄与され、これらの成果は国際学術雑誌へ 140 篇以上の論文として掲載されています。

令和 5 年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 こまだ けんいち
駒田 謙一

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際医療協力局保健医療協力課
医師 日本救急医学会認定救急科専門医 (満 46 歳)

【業績内容】

駒田謙一氏は、2010 年～2011 年にかけて、JICA 専門家としてミャンマーにおける主要感染症プロジェクトにおいて輸血血液の安全性向上並びに HIV/AIDS を含む性感染症の検査・治療の質向上に貢献されました。また、2011 年～2012 年にかけて、ラオスにおける同国初の人口ベースの全国 B 型肝炎有病率調査を主導され、その調査結果は同国における疫学的状況を示す貴重なリファレンスとなっています。

さらに、2012 年より 5 年間、JICA ザンビア HIV/AIDS ケアサービス管理展開プロジェクトの長期専門家として HIV 高蔓延国のザンビアにおける HIV/AIDS 治療の農村部への拡大と質の向上にも貢献されました。

2018 年から現在に至るまで、グローバルファンド理事会に継続的に参加され、現場経験を活かした日本代表団への技術的アドバイスを通じて、世界的な HIV/AIDS・結核・マラリア対策の進展に貢献されています。

令和 5 年度「第 6 回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】 かとう けんたろう
加藤 健太郎

東北大学大学院農学研究科動物環境管理学分野 教授
獣医師 インфекションコントロールドクター
獣医学博士 (東京大学) (満 49 歳)

【業績内容】

加藤健太郎氏は、20 年以上に渡って、熱帯地域で蔓延している原虫病に対して病態発現メカニズムの解明、現地でサンプリングした原虫の疫学解析、現地の生薬を用いた薬剤スクリーニング等を行

ってられました。

特に、熱帯熱マラリア原虫と人獣共通感染症を引き起こすクリプトスポリジウム、トキソプラズマを研究対象とされ、“One Health”の概念から感染制御に取り組んでられました。実際にナイジェリア等で使用されている伝統薬の抗マラリア効果の解析、バングラデシュの鶏でのクリプトスポリジウムの感染率の調査、フィリピンのコウモリからのクリプトスポリジウムの分子疫学解析等を行ってられました。

これらの研究成果は著名な国際学術雑誌に発表されており、発展途上国における熱帯病や動物由来感染症の制圧へと寄与しています。また、帯広畜産大学在職中はJICA「原虫病及び食品媒介感染症上級専門家育成コース」で発展途上国からの研究者と教育研究も行なわれました。

これらの業績より、加藤博士は熱帯医学、寄生虫学研究において今後とも大いに活躍が期待される若手研究者といえます。

令和5年度「第50回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
うちやま じゅんべい 内山 淳平	岡山大学学術研究院 医歯薬学域 准教授	薬剤耐性に対する高性能な人工抗菌酵素の作出基盤技術の研究開発	100万	細菌学
かがや わたる 加賀谷 渉	長崎大学熱帯医学研究所 生態疫学 助教	流行地コホートでの積極的追跡調査サンプルを起点としたマラリア防御因子の再探索	100万	寄生虫学
かねこ ひろき 兼子 裕規	名古屋大学大学院医学系 研究科眼科学 准教授	硝子体鉄濃度測定による眼内炎診断の国際共同研究	100万	細菌学
きみしま あおい 君嶋 葵	北里大学大村智記念研究所 助教	薬剤耐性(AMR)感染症治療を志向した広域・狭域スペクトル活性物質の作用機構解析	100万	細菌学
きむら こうじ 木村 幸司	名古屋大学大学院医学系 研究科分子病原細菌学 准教授	新規ナノ技術を用いた、新規細菌性髄膜炎治療法の開発に資する研究	100万	細菌学
さいとう たいぞう 齋藤 大蔵	岐阜大学応用生物科学部 助教	原虫 <i>Toxoplasma gondii</i> の潜伏感染からの活性化タイミングを決定する、分子機構の解明	100万	寄生虫学
せきね かねこ いずみ 関根(金子)伊澄	三重大学大学院医学系研究科 医動物・感染医学 助教	マラリア原虫スポロゾイトの肝臓感染機構の解明	100万	寄生虫学
とりごえ しょうた 鳥越 祥太	国立感染症研究所 感染制御部 任期付研究員	肺結核病変で形成されるバイオフィルムの機能の解明と効果的な結核治療法への応用	100万	細菌学
なぎ さちよ 凧 幸世	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座 公衆衛生学分野 グローバルヘルス部門 助教	結核の高発症リスク者検出を目指した新たな手法の構築	100万	細菌学

はぎや ひではる 萩谷 英大	岡山大学病院感染症内科 准教授	国際的課題となっている感染 性疾患を対象とした疾病負荷 研究のデータサイエンス・プ ラットホームの創出	100万	細菌学
			1,000万	

以上

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電話 03-3614-7762
E-mail: ohfin@nifty.com